

JEA関東News Letter 18号

第18回サマーセミナー及び第16回ハンズオンセミナー開催報告



第18回サマーセミナー開催

日時：2014年8月28日木曜日

場所：東京歯科大学 血脇記念ホール

大会長：古澤成博教授（東京歯科大学）

実行委員長：末原正崇先生（東京歯科大学）

講師及び講演内容：清水藤太先生（ロサンゼルス開業）「エンド時代における、根管形成理念の新フォーマットの提唱」

澤田則宏先生（東京開業）「根管形成の本質とは？」

参加者160名 無料参加者24名新入会3名

第16回ハンズオンセミナー開催

（旧ベーシックセミナー）

講師：清水藤太先生（ロサンゼルス開業）

場所：東京歯科大学水道橋校舎新館10階臨床実習室

テーマ：根管拡大 形成法

研修内容：ハンズオンセミナー

協賛企業：トロフィー・ラジオロジー・ジャパン社、

参加者25名 聴講生9名を含む

参加者の感想

天川 由美子

東京都開業

私は、JEA関東甲信越静支部が毎年企画しているサマーセミナー担当の常任理事です。裏方の立場から今回の2014年ハンズオンセミナー・サマーセミナーについて感想を述べさせていただきます。

毎年夏に行われるハンズオンセミナーは今回第16回、サマーセミナーは第18回になります。セミナーは平日の午後行われる少人数ハンズオンセミナーと夕方から行われる講演形式のサマーセミナーです。ハンズオンセミナーは、去年までベーシックセミナーと呼ばれていましたが、

今年から分かりやすくハンズオンセミナーに名称を変更しました。

今年のハンズオンセミナーの講師はLA開業の清水藤太先生、そしてサマーセミナーは同じく清水先生と四谷開業の澤田則宏先生にお願いしました。

サマーセミナー担当は、大会長や準備委員長の先生との連絡・講師の先生とセミナー内容や準備物の確認・理事や会員への案内などが主な仕事です。今回は東京歯科大学水道橋校舎をお借りして、大会長・東京歯科大学の古澤成博先生、実行委員長・歯科大学の末原正崇先生により開催されました。

東京歯科大学は新校舎が出来たばかりで、外部の学会で使用するのは初めてということで、古澤先生と末原先生には大学側との交渉で大変ご尽力いただきました。新しい素敵な会場で若い準備委員のメンバーのサポートのもと使わせていただき感謝しております。この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

ハンズオンセミナーは、例年告知と同時に定員がすぐに満員になる少人数実習セミナーです。基本的には若い会員向けなのでベーシックな内容となっています。今回も定員オーバーで聴講生が10人近くとなる大人気セミナーでした。清水先生の講義およびデモはもちろんです、日々の臨床もアポイント表やムービーなどまでご紹介いただき私自身大変勉強になりました。

サマーセミナーは、清水先生と皆様ご存知の澤田先生による講演でした。根管形成について、特にワーキングレングスとアピカルストップについては考え方や形成の順序も異なり、ディスカッションも多いに盛り上がりました。そして、セミナー後は恒例の無料ビアパーティ！今回のパーティは初めて頼んだケータリングだったのですが、参加者も多くお料理も好評でこちらも盛り上がりました。

(反省点：ビアパーティなのにビールが少なくて申し訳ありませんでした。) ケータリング会社の方も「結構みなさん飲まれますね〜！」と驚かれていたほど盛況でした。

ハンズオンセミナー・サマーセミナーは、お呼びする先生の注目度が高いのか、選んだトピックが良かったのかは分かりませんが、年々参加者が増えています。これからも皆様の意見を取り入れつつ、学術的にも質のいい楽しいセミナーを企画していきたいと思って

います。

JEA関東甲信越静支部ではサマーセミナー・ハンズオンセミナーの他に、冬に会員発表含めて休日に一日で行うウインターセミナーも開催しております。みなさまご予定をあわせ是非ご参加ください。

渥海 克幸

私は清水藤太先生と俗に言う「フェイスブック友達」で、積極的にアップされる症例等を通していつも勉強させていただいておりました。そのため、今回初対面でしたが親近感をもって受講させていただくことができました。コースを通して先生の提唱されている「エステティック・エンド」について教えていただいたことを記させていただきます。

強調されていたのは、根管にはそれぞれ固有のデリケートな湾曲が存在し、処置時はその湾曲を最大限尊重し追随しなければならないこと、またそれが良好な予後につながるということです。これを達成するためにはNi-Tiファイルが不可欠となりますが、破断やコストの問題を解決するためにファイルかかるストレスが最小限になる環境を作ることが大切であると述べられていました。具体的方法として、GGDによる歯冠側フレア形成と手用ファイルによる穿通性の確保、SEC10の積極的活用、またアンチカーブファイリングをしっかりと行うこと等を挙げられていました。

短い時間でしたが、すぐに自分の臨床に取り入れることができることも多く、素晴らしいセミナーでした。開催に当たって尽力された関係各位に深く御礼申し上げます。

アンケートより抜粋

**Q 今回のサマーセミナーに参加されていたか
がでしたか？**

- ・ glide pathについてここまで細かく考えて
なかったの、改めて考えてみようと思っ
た。
- ・ 手用ファイルでの限界、Ni-Tiファイル使
用の意義を改めて実感させられました。
- ・ Ni-Tiファイルの使い方、折れにくくする
手順、湾曲根管への対応。
- ・ より良い根管形成を行うための貴重なテ
クニックを学ぶことができた。
- ・ patency、グライドパスの話が聞けた。
- ・ 卒後1年目が、いきなり今回の講演の治
療法を行いたがるが、アメリカではどうし
ているのでしょうか？ 日本とは治療費も
異なるので、すぐに同様にはいかない点も
あり難しいところと思う。例えば、08号フ
ァイルを根尖から3mm出しても良いという
話は、急性症状が無い場合などの若いドク
ターにも配慮してほしい。（若いドクター
はよく分かっていないので）

**Q 今回の講演の内容は、今後の診療に役に
立ちますか？**

- ・ 根管に追従する大切さを身にしみて考え
させられた。
- ・ 根尖部の形成など、大いに役に立った。
- ・ 日常臨床にすぐに使えるような内容だっ
た。
- ・ グライドパスの重要性は認識してしまし
たが、ファイルを根尖から突き出すという
のは、初めて聞きました。とてもためにな
りました。

Q 今回よく理解できたことは何でしたか？

- ・ Glide Pass、Patencyの重要性。
- ・ Coronal Flare
- ・ アンチカーブファイリング。

**【日本歯内療法学会関東甲信越静支部主
催 平成26年度デモコース2】**

【根尖部根管の清掃（難治症例への対応）】
内容:治療法の説明 スライドにて顕微鏡、
マイクロエクスカ、超音波吸引洗浄法、
CBCTの利用など治療のデモ。

実際に患者さんで、顕微鏡下で治療すると
ころを、大きなモニターで見て頂きます。

講師: 小林千尋先生（日本歯内療法学会関
東甲信越静支部会会長）・戸田賀世先生

日時:平成26年11月27日 木曜日 18:00～
20:00（17:30受付開始）

会場:ソウデンタルオフィス

東京都 江東区 東雲1-9-18東雲 キャナルコ
ート CODAN 106（4街区）

<http://jea-kantoh.jp/info/showseminar?id=64>

テーマ：「診査・診断—歯内療法の第一歩」

日時：2015年2月11日（水・祝日）

会場：株式会社ヨシダ3階（東京都台東区上野7-6-9）

大会会長：三橋 晃（神奈川県開業）

実行委員長；長尾 大輔（茨城県開業）

午前講演 講師:小林 千尋（東京医科歯科大
学）、新井 嘉則（日本大学歯学部特任教授）、
小嶋 壽（東京都開業）（順不同）

午後テーブルクリニック 一般口演 演題募集
締め切り 2014年12月27日（土）

連絡送付先：hiro23@sepia.ocn.ne.jp

金沢紘史（ウィンターセミナー担当）

鈴木賢策賞受賞講演：金丸 順策 先生

一般口演：6演題、テーブルクリニック10演題

その他：ビアパーティおよびアワード賞発表
（鈴木賢策賞・支部会長賞）あり

皆様からのご意見ご希望などをMailにてお待ちし
ております。

事務局アドレス：golden-circle@nifty.com